

HOT NEWS

国道229号 神恵内村 大森大橋

神恵内村



9月7日～8日に発生した台風18号により、国道229号神恵内村大森大橋が高波により橋桁が（L=159m）に渡り落下被害を受けた。

小樽開発建設部では、9月17日に大森大橋応急復旧対策検

討委員会（委員長 佐伯浩 北海道大学副学長）を発足し早急に応急復旧対策に着手することとした。

第1回委員会(平成16年9月17日)の審議事項

1. 被害状況

主桁落橋（4～7径間目のPC主桁159m、重量3,600t）
P2、P3、P8橋脚がひび割れや破損を受ける。

2. 被害時の気象、海象状況

波浪現象の分析として強風吹き寄せによる水面上昇、気圧の低下による水平の吸い上げ現象に潮位偏の発生による可能性。

3. 応急復旧方法の検討

- 1) 旧道の調査結果：迂回路として安全上不適と判断。
 - 2) 上下部工の点検結果：上部せん断ひび割れ、支承部損傷、下部工P2、P3、P8橋脚のひび割れ損傷。
 - 3) 下部工の補修工法検討：鋼板まき立て、ひび割れ注入工法など。
 - 4) 仮橋案の検討：構造の安全性、経済性を考慮し、既製桁を活用し、早期供用を図る。
- などが審議された。

第2回委員会(平成16年9月21日)

現地視察が行われた。



**第3回委員会
(平成16年12月2日)の
審議事項**

**1) 波浪状況の推定と被災
メカニズムについて**

水理模型実験を行い

①水位の異常な上昇②特
殊な地形③波浪の重複な
などによるものと推定。

**2) 橋梁の損傷状況と落下
時の挙動について**

上部橋桁は海側が上に
持ち上がりその後、山側
にスライドして落下した
と推定。

**3) 橋梁の健全度評価につ
いて**

現橋のコンクリート強
度、中性化、発錆状況か
ら健全であったと評価。

**4) 応急復旧の管理体制に
ついて**

①浪高4mで初動体制をとる。②その他波浪予測、現地
パトロール、CCTVカメラ、テレメータなどによる状況確
認、情報提供などの管理体制をとる。

5) 今後に向けて

今後の本復旧案についての検討状況が報告され①現位置
での復旧案②海側別線せり出し案③山側別線トンネル案の
3案について比較検討した結果、工費・工期などの面から



③の山側別線トンネル案が有力と判断された。

また、きわめて待望されていた供用については、関係者
の総力により、平成16年12月10日(金)午前8時に片側交互運
行(昼夜通行可・通行車輛制限なし)、同年12月16日(木)
午前8時に全面供用になりました。

